

芸工生の基盤を育む教育の取り組み

東北芸術工科大学

基盤教育研究センター長 吉田 朗

芸工大の1年生は**どんな授業**を受けているのか？

例えば、1年生全員が受講している「**芸術平和学**」や「**総合芸術概論1**」はどのような授業なのか？

本日は、「**科目がどのように組み立てられているのか**」から説明します。



本学の使命

- 「**芸術立国**」という設立理念
- 地域社会の発展のために生まれた「**新しい発想の大学**」

つぎの時代の「**新しい美大**」を目指して

- すべての学生は**創造的**である
- **独自の考え**を生み出し、仕事や生き方につなげる**力**を培う
- 社会の問題を**アート・デザイン**によって**解決**する人材を育てる

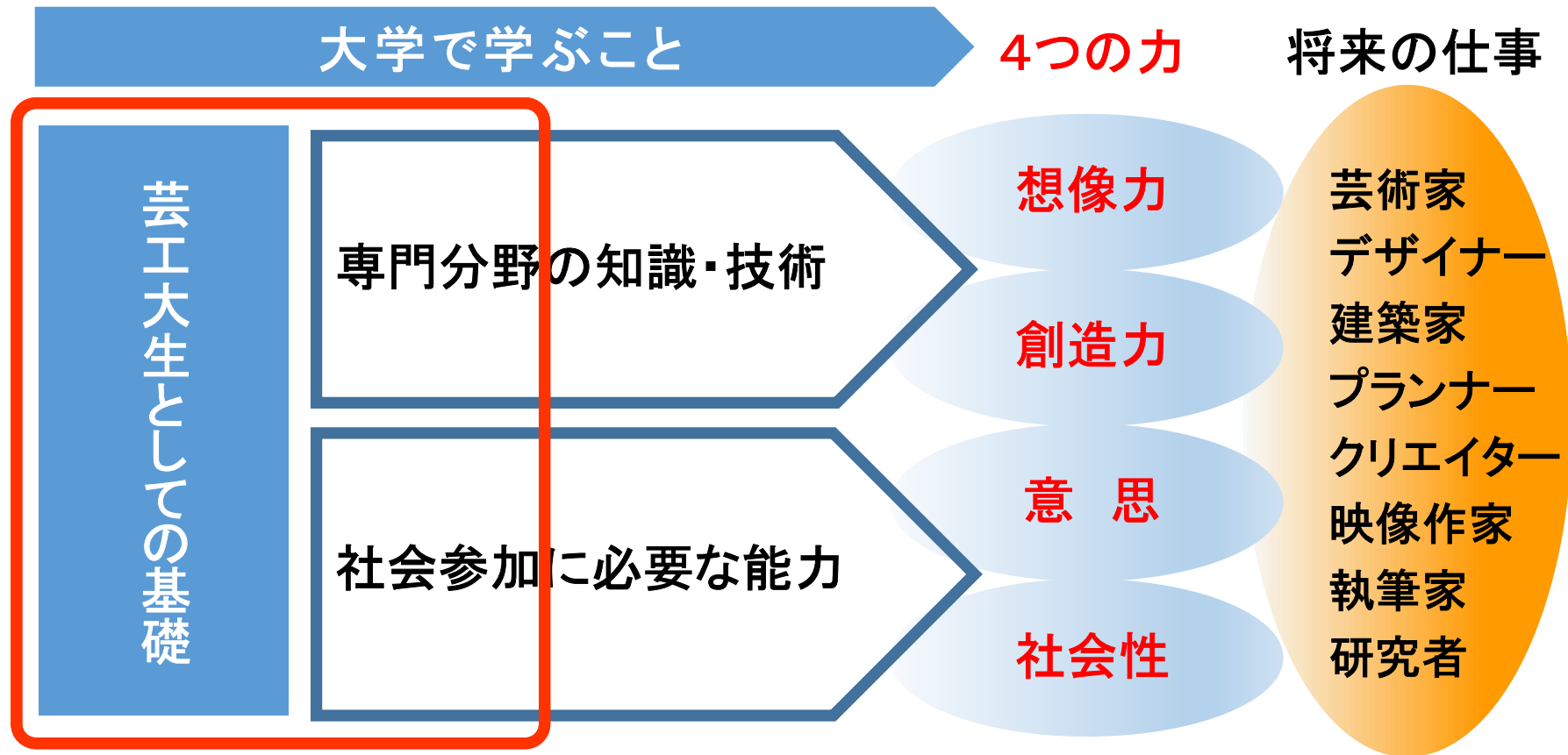


このために、**4つの力**を育む

- ① 本質を見ようとする姿勢、純粹な目”**想像力**”
- ② 想いを形にできる力”**創造力**”
- ③ 問題提起と解決への強い意志”**意思**”
- ④ 社会的・職業的自立のための能力・態度”**社会性**”

教育の方針

4つの力を育む教育のしくみ



基盤教育＝クリエイティブシンカー(創造的思考者)を育てる

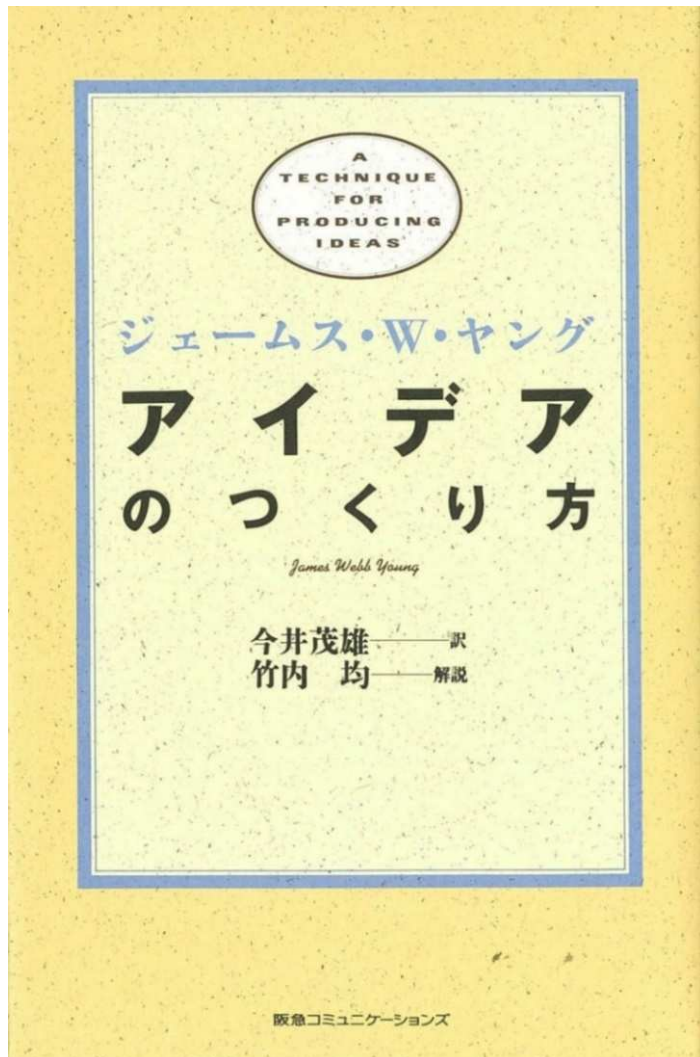
アート・デザインの大学にふさわしい基盤教育の体系を構築し、学生の創造力を引き出す広範な科目編成を目指す。

アート・デザインの専門を学ぶために必要な〈基礎知識〉に加え、学生が専門分野を創造的に広げるための『アイデアの種』となる〈クリエイティブ教養〉を提供することが狙いである。

単に芸術的な技術や作品の制作に焦点を当てるのではなく、問題解決や新しいアイデアを生み出す創造的な思考力を持つ人物を育成することを目的としている。

新しいアイデアはどのようにして生まれるのか

ジェームス・W・ヤング(アメリカ広告業界の重鎮)



「アイデアはつくるもの」

- アイデアとは**既存の要素の新しい組み合わせ**以外の何ものでもない
- アイデアはセンスのある人の元に突然降ってくるようなものではなく、「**つくっていくもの**」である
- アイデアをつくるための**第一段階はリサーチ**から

新しいアイデアはどのようにして生まれるのか

アイデアが生まれる原理

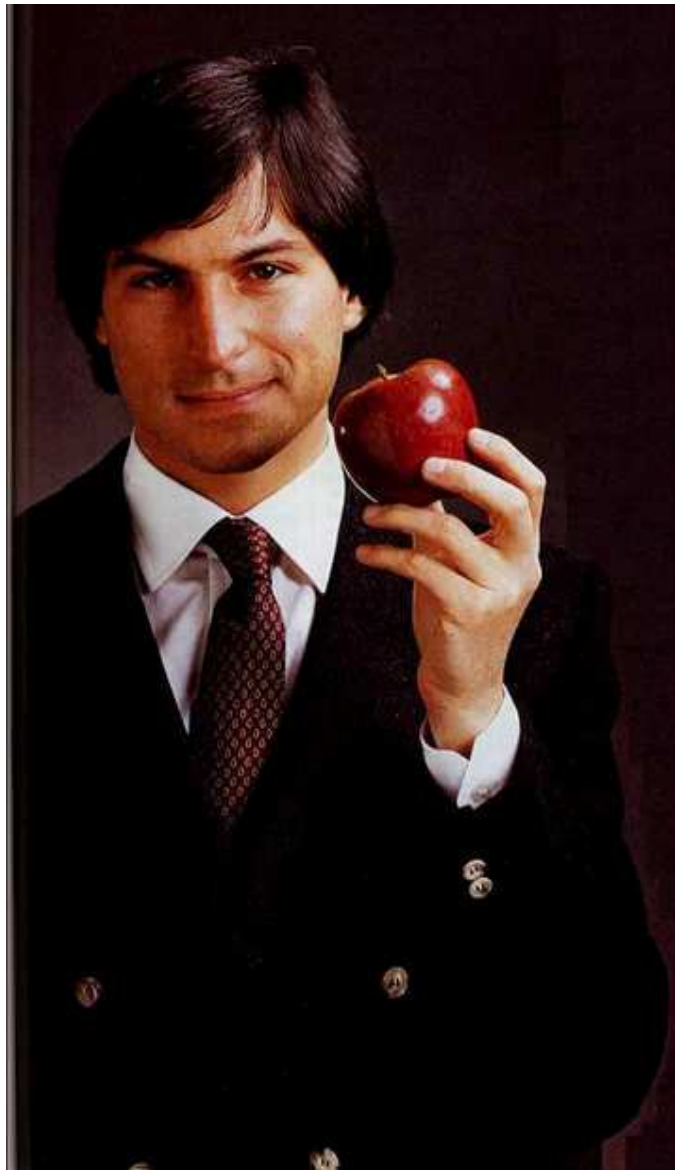
アイデア = 「一般知識」 × 「専門知識」

「一般知識」: 普段の生活で必要とされる知識。様々な分野に好奇心を持って蓄えた知識。雑学

「専門知識」: 普段の生活ではあまり必要とされない専門的な知識。
リサーチして得られた知識

アイデアを生み出す手順

- ① 資料を**収集**する / ② 情報を**整理**する / ③ **組み合わせ**る
- ④ **アイデア**が生まれる / ⑤ **適用**させる



***CREATIVITY* is just
connecting things.**

When you ask creative people how they did something, they feel a little guilty because they didn't really do it, they just saw something. It seemed obvious to them after a while.

That's because they were able to connect experiences they've had and

***SYNTHESIZE* new things.**

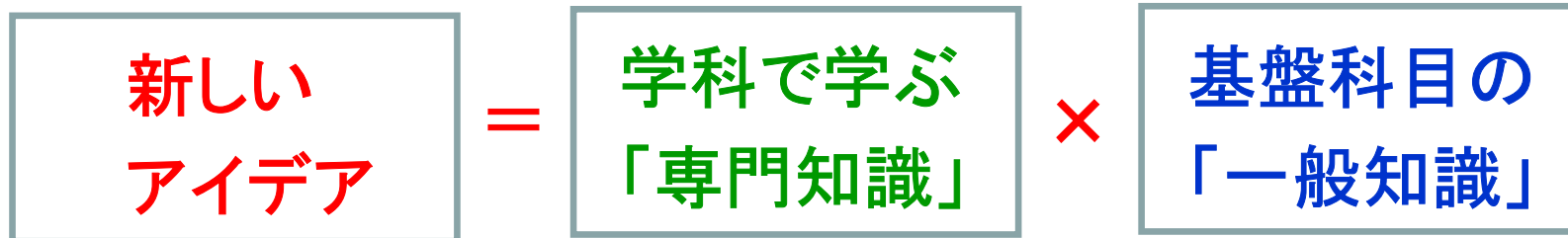
- Steve Jobs, 1996

創造性とは物事をつなげることに他ならない。

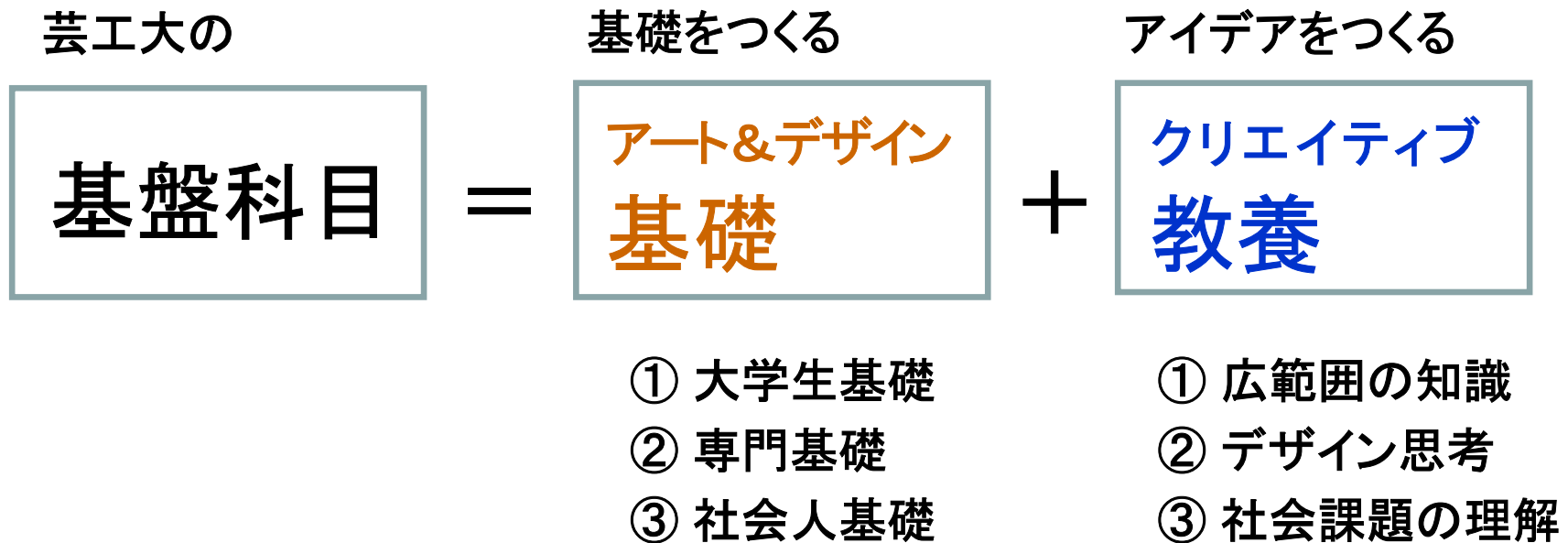
…過去の経験をつなげることで、新しい物事を合成してきたのである。

つまり、新しいアイデアは

- センスのある人の元に、突然降ってくるようなものではない
- 既にあるもの同士の、新しい組み合わせに他ならない
- 様々な分野に好奇心を持って知識を蓄えることが大切
- 仲間とのコミュニケーションを通じて新しいアイデアが生まれる可能性が大



学びの方程式



- ① 大学生基礎
 - 日本語力、論理的な思考、英語によるコミュニケーション
 - 学習の反復と継続の習慣化
- ② 専門基礎
 - 自然、社会、地域の観点から多角的なものの見方、考え方
 - 想像力と創造力につながる発想力と基本的な技術
- ③ 社会人基礎
 - 芸術やデザインによって社会へ参加し、貢献できる目標志向力
 - 自分の進路を自ら構想し、実現化するための社会人基礎力

学びの方程式

基礎をつくる

アート&デザイン
基礎

+

専門科目

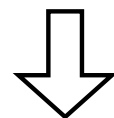
×

アイデアをつくる

クリエイティブ
教養



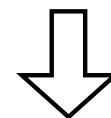
基礎を養い専門を強化



1,2年次



専門をよりクリエイティブに展開



3,4年次

基礎と教養
7分野

地域・環境

環境と地域社会の成り立ちと現状について理解を深める

ICT

IT、コンピュータ、プログラミングの知識とスキルを身に付ける

社会力

デザインやアートのかを自らのキャリアに結びつけていく

人文社会

「社会と文化」の成り立ちと仕組みを理解する

自然科学

自然界の現象について科学的な見方と扱い方を学ぶ

グローバル
コミュニケーション

自国以外の言語や文化、習慣、諸問題について理解する

アート・デザイン

アート・デザインの基礎知識を総合的かつ体系的に学ぶ

分野	科目
環境・地域	芸術平和学
	東北文化論
	まちづくり論
	クリエイティブ・ローカル論
	地球環境論
	持続可能な地域論
	地域創造演習
ICT	ICTリテラシー
	AIテクノロジー論
	ICTと社会
社会力	スタートアップゼミナール
	デザイン思考基礎
	生活と経済
	キャリア形成論
	仕事講座
	キャリア設計論
	スポーツ実技
	就業実習
	インターンシップ
人文社会	現代社会学
	社会と政治
	倫理と社会
	日本国憲法
	知的所有権
	地理学概論

分野	科目
自然科学	健康科学論
	アートデザインのための数理
	データの科学
	環境と心理
	生物と自然
	線形代数学
グローバル	多文化理解
コミュニケーション	ENGLISH 101
	ENGLISH 102
	日本語1 ※留学生のみ
	Presentation in ENGLISH
	Communicative ENGLISH
	Academic ENGLISH
	Practical ENGLISH (TOEIC)
	日本語2 ※留学生のみ
アート&デザイン	総合芸術概論1
コア科目	総合芸術概論2
	美術史概論
	デザイン史概論
	色彩学概論
	立体造形基礎論
	編集ディレクション演習
	絵画・デッサン

分野	科目
アート&デザイン	文化財保存修復入門
エクспанション	日本美術史
科目	西洋美術史
	近現代美術史
	文化遺産マネジメント
	歴史遺産学総論
	日本建築史
	西洋建築史
	考古学概論
	民俗・人類学概論
	地誌学概論
	アジア文化論
	工芸デザイン入門
	文芸総論
	思想と文学
	プロダクトデザイン入門
	インテリアデザイン論

分野	科目
アート&デザイン	応用人間工学
エクспанション	建築デザイン論
科目	都市空間デザイン
	生活とグラフィックデザイン
	映像文化史
	メディア文化史
	サステナブルデザイン入門
	地域デザイン入門
	ブランド・マーケティング入門
	広告表現入門
	商品開発・店舗プロデュース入門
	事業計画入門
	インターネットビジネス論
	現代幸福論
	クリエイター起業論
	クリエイター起業ゼミナール
	イノベーションプロジェクト

アート・デザインのエクспанション科目は、各学科の**入門レベル**の科目を集めて**シェア**し、この中から自由に**幅広く学習させる**ことを目的とする

1年生全員が受講している
「芸術平和学」という科目

1992年(平成4年)4月 公設民営方式により設立され開学

<公設民営方式とは>

大学施設(ハード)を公共が造る

山形県と山形市が大学の設置のため約150億円を拠出
☆市民・県民の意思によって造られた大学

教育運営(ソフト)を民間が担う

協力者である京都造形芸術大学理事長の徳山詳直(当時)の発案により東北唯一の芸術系大学としてスタート
☆大学に魂を吹き込んだのは徳山詳直氏

東北芸術工科大学設立の宣言

この大学は悠久の大河最上川をつつんで
歳王連峰、公羽三山朝日連峰に囲まれる
日本文化の源流、縄文の奥深い土壌の中から生み出された
産業革命に始まる近代文明は二十世紀末の今日まで
人類自らも存亡の危機に立たせている
科学技術と経済理論による支配された現代社会は
それ故に人類史を貫いてきた精神の尊厳
人間であることの意味と根底から問われるに至った

目前に迫った新しい世紀は戦争と平和、南北問題
更には体制崩壊の問題と基軸とする新しい世界調和の展望
そして何よりもこの母なる大地、地球をいかに守るか
これら人類生存条件の解決こそ最大の課題ではなかつたら
この大学は芸術的創造と人類の良心によって
科学技術と運用する新しい世界観の確立を目指して
その課題に応えたい

わが大学の前に道はない
あるは歴史的実験のみ

一九九二年春 徳山詳直より起草す

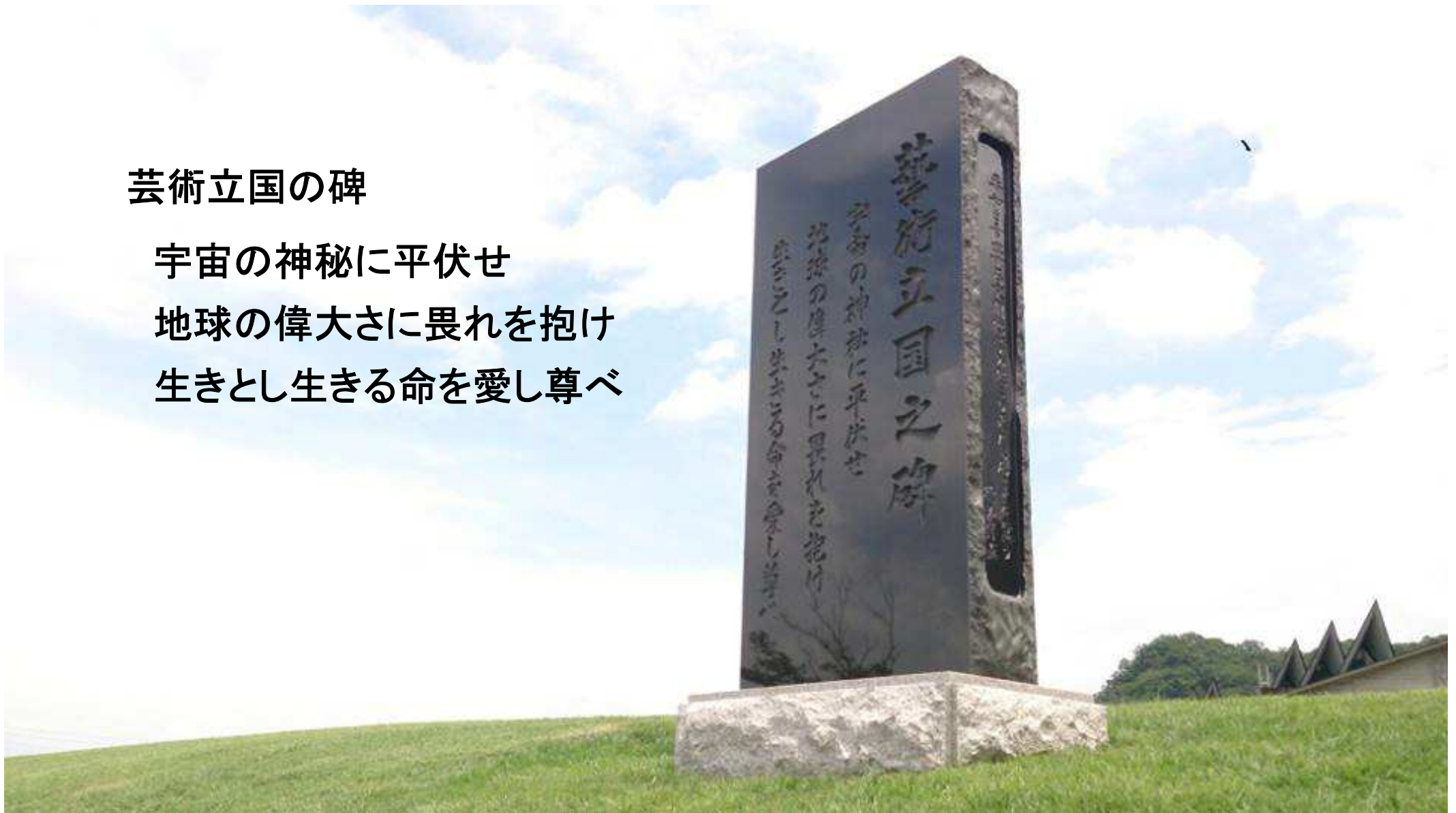


本学創設者
徳山詳直 元理事長
(1930年－2014年)

「この大学は芸術的創造と、人類の良心によって科学技術を運用
する新しい世界観の確立を目指してその課題に応えたい」

芸術立国の碑

宇宙の神秘に平伏せ
地球の偉大さに畏れを抱け
生きとし生きる命を愛し尊べ



『芸術立国』

「私が言う芸術立国とは、花がきれいだと感じる子供の心が、やがて世界から原子爆弾のようなものをなくすにちがいないという理念です。芸術の力で日本列島からすべての原発をなくすのだという信念なのです」

(徳山詳直)



<科目の目的>

- 本学の建学の理念に謳われた「**芸術的創造と、人類の良心によって科学技術を運用する新しい世界観**」とは何か
- 未曾有の震災と原発事故の爪あとが未だ残る東北でこの意味を問いただして行く

<学びのポイント>

- ① 現代社会を支える**科学技術の功罪**、それを運用する人間の良心の問題
- ② 社会の平和、人類の幸福につながるような**芸術の秘めたる可能性**、芸術が人間の良心を育むこと
- ③ 『芸術立国』の世界観と**各自の専門分野とのつながり**を考える

科学技術の功罪(1)

- 科学技術の進展が多くの利益・希望を生み出してきた。多くのイノベーション(技術革新)が便利で快適な生活を実現してきた。

アマゾンロボティクスの倉庫ロボット(同社のサイトから)



科学技術の功罪(2)

- 科学技術の成果はそのまま人類の幸せに直結するかといえ、残念ながら必ずしもそうではない。効率化や商業化といった利益の追求や、軍事化による国際的支配力強化に結びついている。



科学技術の功罪(3)

- 科学技術が、私たちの価値観から経済にまで大きな影響力を持つようになったいま、倫理なき科学技術は危険この上ない代物になる可能性がある。原発事故は記憶に新しい。



科学技術の功罪とは

科学技術そのものが悪いわけではない。それを使う人間が、良心を忘れて科学技術を悪用することが問題である。つまり、問題は「科学技術を利用する人間の功罪」なのである。

芸術の可能性(1)

- 芸術は人間が人間らしく生きるための糧である。美しいものに感動する心を培うことは、豊かな感性と想像力や創造力をもった人間を育むことになる。芸術は人間教育の手段である。



子ども芸大の子どもたちが描いた初代スクールバスのラッピングデザイン。

子どもたちは、1/10の段ボール模型に思い思いのペイントを施した。それを撮影しラッピングしたものである。

(撮影: 吉田朗)

芸術の可能性(2)

- 芸術は共に生きる社会の基盤(人間関係資本)を形成するものである。
共に芸術活動に取り組むことが、人々のコミュニケーションや連帯感、
地域への帰属意識を高め、強い絆を創り出す。



世界銀行東京開発ラーニングセンターから要請を受け、学生たちがウガンダのエイズ孤児が置かれている現実を学んだ上で、その子どもたちのためのワークショップを考案し実施した。

ウガンダと日本の参加者同士の「存在感」を情報交換できるよう、互いの身体の形を1枚の布に描き合った。
(撮影:石田俊輔)

芸術の可能性(3)

- 芸術は言語の限界を超えて共感をもたらすことから、平和を表現し訴求する手段である。芸術を通じた被爆体験の継承や核廃絶を訴える活動などは世界平和の礎を築くものである。

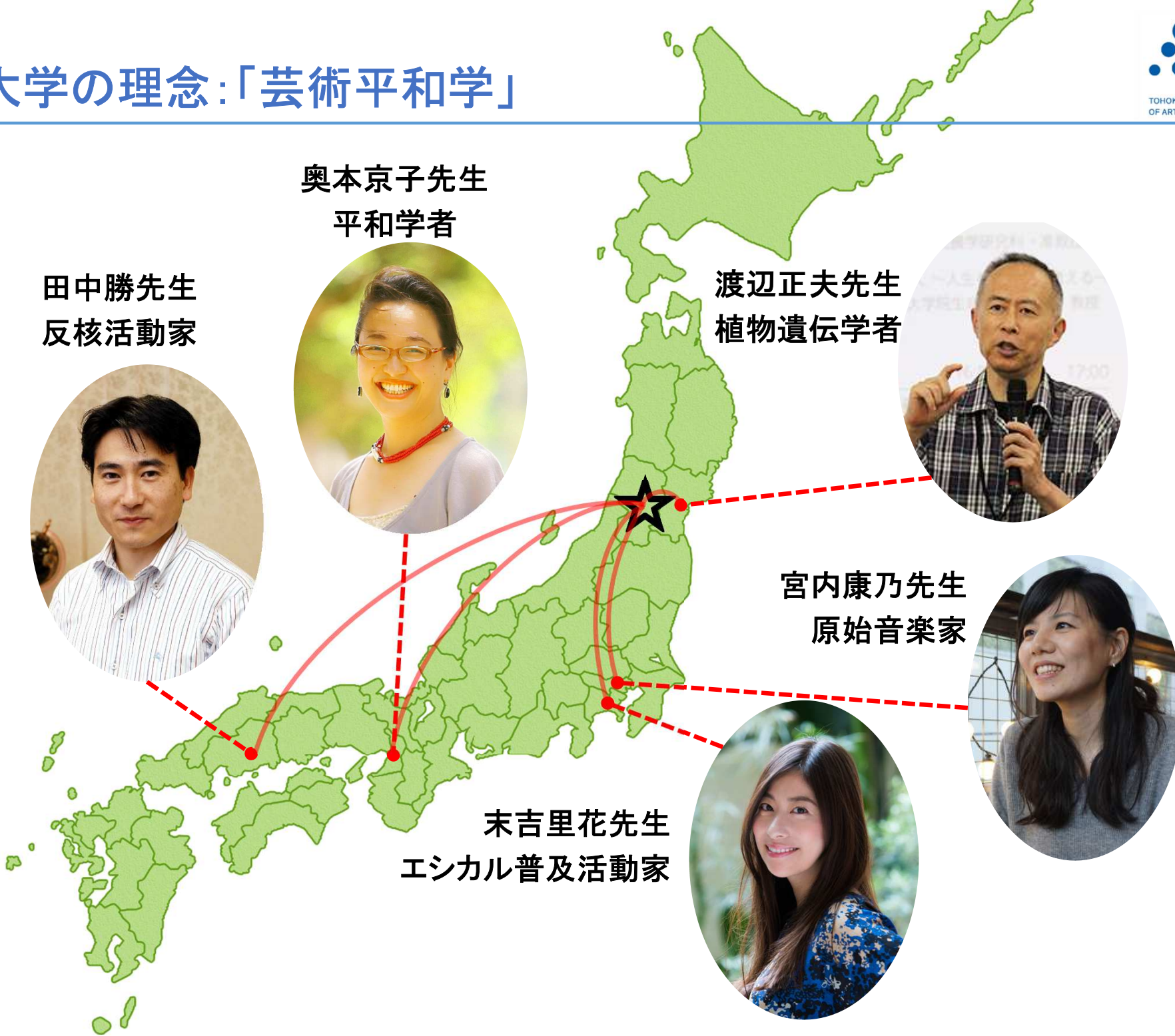


もっとも有名な反戦絵画は、1937年の6月に完成したピカソの『ゲルニカ』であろう。この油彩画は、スペイン北部ゲルニカ地方への無差別爆撃への抗議として描かれた。

大学の理念:「芸術平和学」



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN



<科学技術の功罪>

2 クルマ社会の功罪—人と社会とクルマの未来を考える / 吉田朗教授

クルマを前提につくられてきた街や地域が高齢者を苦しめている

3 生命科学の光と影 / 渡辺正夫特別講師

生命の根源に人間が関わることについて、倫理的な判断が迫られている

4 人工知能は果たして敵か味方か / 梶谷通稔(みちとし)特別講師

AI・ロボットによって失業の増加、軍事利用の危険性が懸念される

5 エネルギーから考える日本再生の方法 / 竹内昌義教授

持続不可能なエネルギーから自然再生可能エネルギーへの転換が求められる

6 インターネット社会の光と影 / 古藤浩教授

情報に翻弄され、情報社会に不必要な混乱が生じる恐れがある

<芸術の可能性>

8 アーティストたちによって蘇った街 / 吉田朗教授

アーティストたちが住み始めたことで街に奇跡が起きた<パールの奇跡>

9 地域とアーティスト-「市民芸術家」の活動 / 石沢恵理講師、村上滋郎准教授

アートで地域を活性化するアーティストたち(「市民芸術家」)の営み

10 音で紡ぐ心のコミュニケーション / 宮内康乃特別講師

原始的な音楽が持つコミュニケーションの可能性を体験する

11 平和をデザインする / 奥本京子特別講師

対立を調和に変えるためのロジック<平和学>を学ぶ

12 ひろしま発、平和に向けたアートプロジェクト / 田中勝特別講師

広島から核廃絶を訴え続けるアーティストの活動記録と未来に向けた展望

<『芸術立国』につながる世界観>

13 「エシカル」という世界観 / エシカル協会の特別講師

人、自然、未来にやさしい暮らし方を実践する新しい<価値観>

14 「持続可能な発展」からSDGsまで / 三浦秀一教授

国連が示してきた世界平和への指針<パラダイム>について学ぶ

1年生全員が受講している
「総合芸術概論1」という科目

<科目の目的>

- 芸術の歴史の転換点には常に新しい上位概念の発見・発明がある。その転換点を手がかりにして、**これまでになかった「芸術の進化論」**を展開する
- 美大の教養課程に必要なとなる基礎的な知識を身につけ、**クリエイティブな頭のOS(Operating System)**をつちかう授業を目指す

<学びのポイント>

- ① 芸術の歴史を、美術を中心に、音楽や哲学、映画の要素も加えて、それらの**転換点に生まれた「新しい上位概念」**を学ぶ
- ② 芸術の歴史を単に**出来事や年表で覚えるのではなく**、上位概念との関係性によって解き明かす
- ③ **豊富な参考図書リスト**にある本も積極的に読むことを推奨する

担当:菅付雅信先生
(アート&デザイン分野長)



《プロフィール》

編集者／株式会社ゲーテンベルクオーケストラ
代表取締役。**1964**年宮崎県生まれ。

角川書店『月刊カドカワ』、ロッキングオン『カット』、**UPU**『エスクァイア日本版』編集部を経て独立。『コンポジット』『インビテーション』『エココロ』の編集長を務め、現在は出版物の編集・執筆から、コンサルティングを手がける。

著書に『はじめての編集』『物欲なき世界』『動物と機械から離れて』『不易と流行のあいだ』等。

下北沢**B&B**で「編集スパルタ塾」、渋谷パルコで「東京芸術中学」を主宰。**NYADC**銀賞、**D&AD**賞受賞。

アート&デザイン:「総合芸術概論1」



2 洞窟画

「松明が洞窟画を生み、イマジネーションを誕生させた」

3 文字の発明

「アルファベットの発明が思考の視覚化を生み、人間は概念的になった」

4 哲学の誕生

「上位概念を考えることが、もっとも知的な行為であることの始まり」

5 巨大宗教の誕生

「宗教は人類が産んだ最大のフィクション」

6 音楽の誕生～譜面の誕生

「音楽は音の数学であり、音の建築である」

7 印刷革命

「印刷機の発明による聖書の普及が、個人主義を生んだ」

8 ルネッサンス

「ルネッサンスの遠近法が、人間の視点は神より重要であることを提示した」

10 日本の文化:本歌取りと侘び寂び

「千利休が簡素は豪勢よりも美しいと世界で初めて唱えた」

11 印象派

「チューブの絵の具が印象派を生み、写実性よりも印象が重要になった」

12 個人主義と民主主義の誕生

「文庫本やペーパーバックが個人主義を生み、「孤独」はベストセラーの重要な題材になる」

13 写真の誕生とその影響

「写真のリアリズムにあらがって、美術は写実を離れた」

アート&デザイン:「総合芸術概論1」



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN



2024年4月から

**クリエイティブシンカー(創造的思考者)を
育てるための新たな基盤教育のカリキュ
ラムが始まっている**